

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2177 号

The epileptogenic zone in pharmaco-resistant temporal lobe epilepsy with amygdala enlargement

扁桃体腫大を伴った薬剤抵抗性側頭葉てんかんにおけるてんかん原性領域

鈴木 皓晴 (すずき ひろはる)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、扁桃体腫大を伴う薬剤抵抗性側頭葉てんかんにおけるてんかん原性領域を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。扁桃体腫大を伴う側頭葉てんかん(TLE-AE)は MRI 陰性側頭葉てんかんの一部として報告されているが、未だ頭蓋内ビデオ脳波を用いた TLE-AE のてんかん原性領域の解明はされていなかった。本論文では、TLE-AE は海馬に MRI 異常は認められないが、薬剤抵抗性 TLE-AE のてんかん原性領域は扁桃体と海馬の両方に存在すると仮説をたて、頭蓋内ビデオ脳波所見ならびに術中皮質脳波所見、さらに手術成績の解析からそのてんかん原性領域の解明を行っている。対象は 11 例の薬剤抵抗性 TLE-AE 症例とし、片側扁桃体腫大ならびに海馬非萎縮の存在を MRI 体積測定を用いて全例で客観的に証明されている。頭蓋内ビデオ脳波における発作起始域と易興奮域の同定ならびに術中皮質脳波における発作間欠期てんかん性放電を示す部位の同定、さらに手術方法・手術成績を解析することで、薬剤抵抗性 TLE-AE のてんかん原性領域は扁桃体と海馬両方に及んでいることが解明された。また術前後の記憶機能についても言及しており、薬剤抵抗性 TLE-AE における外科的治療において扁桃体切除および海馬多切除術が記憶機能を保ち、かつ、てんかん原生大脳辺縁系をコントロールするために有効であったと結論づけている。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。